

第2章 市民アンケート調査結果

2-1 調査の概要

(1) アンケート調査の目的

市民の皆様方から綾部市全体や各地域のまちづくりに関するご意見やご希望をお聞きし、“まちづくりの基本的な方針を定める計画”（都市計画マスタープラン）に反映させることを目的に、アンケート調査を実施しました。

(2) 実施期間

市民アンケート調査は、平成23年12月9日に配布し、平成23年12月24日を期限として回収しました。

(3) 調査対象

18歳以上の市民2,000人を対象としました。なお、対象者の抽出に際しては、無作為抽出としました。

(4) 実施方法

調査票を郵送配布し、郵送回収しました。

(5) 回収状況

■各アンケートの回収率の状況

区 分	配布数	回答数	回答率
市民アンケート	2,000票	935票	46.8%

(1) 買物、会食などの行動について

ア 食料品・日用雑貨は市内で買物する割合が高く、ファッション関係の買物や友人との会食などは、市外を利用する割合が高くなっています。

- ・食料品・日用雑貨の買物場所は、市内が約74%で、その内、市中心地又は市内大規模店舗が約81%（“市内”の中の構成比）となっています。また、市外の利用者は約19%と市内で買物をする割合が比較的高くなっています。
- ・一方、服などのファッション関係の買物場所は、市内が約37%で、その内、市中心地と市内大規模店舗が約93%（同上）となっています。また、市外は約48%と市外で買物をする割合が比較的に高くなっています。
- ・また、友人などとの会食の場所は、市内が約47%で、その内、市中心地と市内大規模店舗が約83%（同上）となっています。また、市外は約46%と市外で会食する割合が比較的高くなっています。

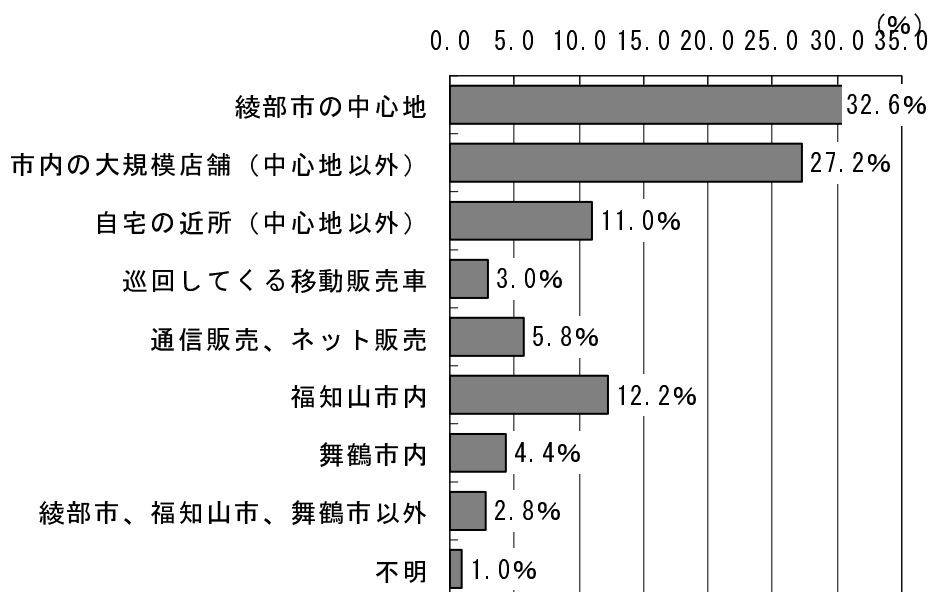


図2-1 よく利用する場所【食料品・日用雑貨】

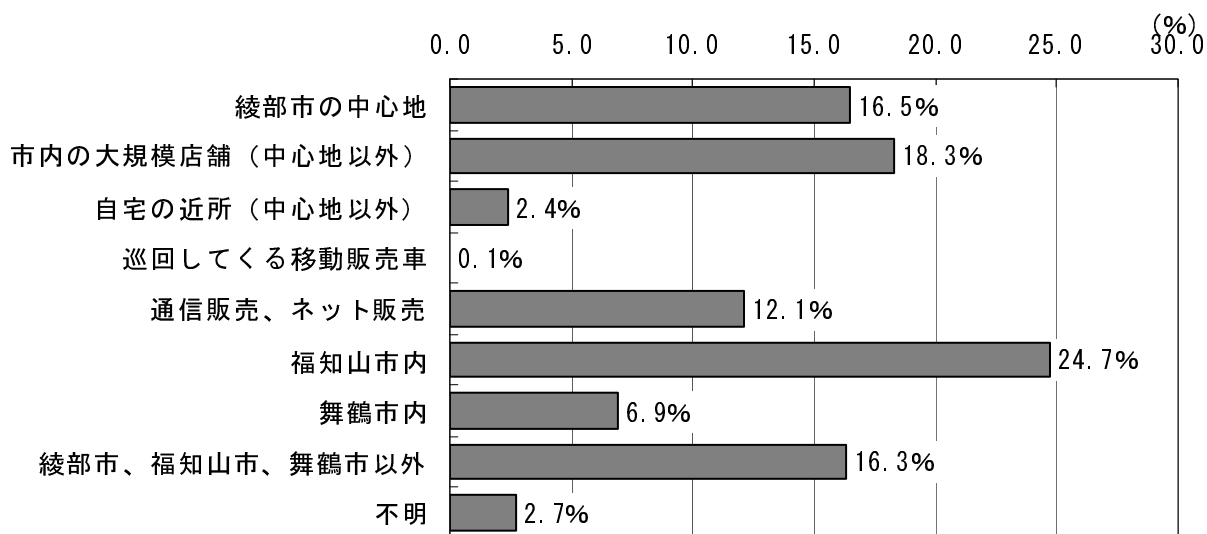


図 2 - 2 よく利用する場所【服などのファッション関係】

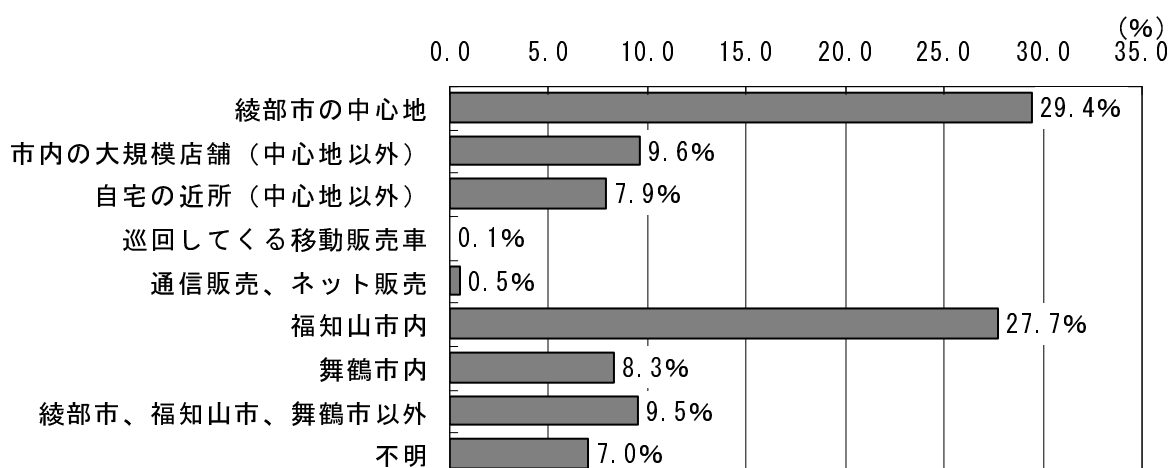


図 2 - 3 よく利用する場所【友人等との会食など】

イ “その場所を選ぶ理由”として「地元ではできない、そろわない」が、“服などのファッション関係の買物”、“友人等との会食”において上位を占めています。

- ・“その場所を選ぶ理由”として「何でもそろう」「値段が安い、手ごろ」が、“食料品・日用雑貨の買物”では約 5 6 %、“服などのファッション関係の買物”では約 4 9 %、“友人等との会食”では約 2 8 %と上位を占めています。
- ・一方、「地元では出来ない、そろわない」が、“食料品・日用雑貨の買物”では約 5 %と低くなっていますが、“服などのファッション関係の買物”では約 2 5 %、“友人等との会食”では約 1 2 %となっています。

ウ 買物や友人等との会食時の交通手段は過半数の人が自動車を利用し、徒歩・自転車や公共交通の利用割合は低くなっています。

- ・“食料品・日用雑貨の買物”、“服などのファッション関係の買物”、“友人等との会食”を行う時の交通手段は、「自動車」が約58%～約67%と最も多くなっています。
- ・一方、「徒歩」「自転車」は“食料品・日用雑貨の買物”において約24%になっていますが、“服などのファッション関係の買物”、“友人等との会食”では約11%～約14%と低くなっています。
- ・「鉄道」「路線バス・市内巡回バス」といった公共交通の利用者は“食料品・日用雑貨の買物”は約5%、“服などのファッション関係の買物”は約1%、“友人等との会食”は約10%といずれも低い率となっています。

(2) 居住している地域の環境などについて

ア 居住している地域の現状について、「現状のままでよい」は約38%で、「現状のままで不満」が約48%を占めています。

- ・居住している地域の現状について、市全体で「現状のままでよい」は約38%で、「現状のままで不満」が約48%を占めています。
- ・区域区分別では、「現状のままでよい」は市街化区域で約44%、市街化調整区域で約36%、都市計画区域外で約19%となっています。一方、「現状のままで不満」は市街化区域で約44%、市街化調整区域で約49%、都市計画区域外で約69%となっています。
- ・地域に対する評価は市街化区域が最も高く、次いで市街化調整区域、都市計画区域外の順となっています。

イ 居住している地域の環境の中で満足（プラス点）としている項目は、自然環境、農業環境・田園風景、人とのつながり、歴史文化・歴史、住宅地の環境などの8項目です。

- ・居住している地域の環境の中で満足している8項目は、次のとおりです。

1位 緑や水辺の自然環境 : 0.73	5位 住宅地の環境 : 0.25
2位 農業環境、田園風景 : 0.44	6位 上水道 : 0.21
3位 人とのつながり : 0.31	7位 消防、救急医療 : 0.17
4位 伝統文化、歴史 : 0.30	8位 治安対策 : 0.08

(注：評価点は、「満足」：+2点、「やや満足」：+1点、「やや不満」：-1点、「不満」：-2点とし、合計点数を回答票数で除した値です。)

- ・自然環境、農業環境や田園風景、人とのつながり、伝統文化や歴史等について、今後も守り育てていくことが望まれています。
- ・都市計画区域外では、このうち「消防、救急医療」は-0.21、「上水道」は-0.12とマイナス評価となっています。

ウ 居住している地域の環境の中で不満足（マイナス点）としている項目は、まちなぎや活力、高校や大学への通学、公園・広場、文化・スポーツ施設の利用、道路・交通などの12項目です。

- ・居住している地域の環境の中で不満足としている12項目は、次のとおりです。

1位	まちの活気、活力	: -0.69	7位	河川、雨水排水	: -0.14
2位	高校、大学等への通学	: -0.56	8位	保育施設、福祉施設の利用	: -0.13
3位	公園・広場	: -0.41	9位	下水道	: -0.10
4位	文化・スポーツ施設の利用	: -0.29	10位	日常の買物	: -0.04
5位	道路・交通	: -0.19	11位	病院、診療所への通院	: -0.03
6位	自然災害への対策	: -0.17	12位	職場への通勤	: -0.01

エ 区域区分別では、全ての区域で自然や風景に係る環境評価は高く、市街化調整区域、都市計画区域外は市街化区域と比較し、通学、通院、買物、施設利用などの利便性において評価が低くなっています。

- ・不満足とする項目は、市街化区域は20項目中8項目、市街化調整区域は11項目、都市計画区域外は14項目となっています。
- ・このうち、“緑や水辺の自然環境”“農業環境、田園環境”などの自然や風景に係る環境の評価は全ての区域で高くなっています。
- ・一方、“高校、大学等への通学”、“病院、診療所への通院”、“日常の買物”、“保育施設、福祉施設の利用”、“文化・スポーツ施設の利用”、“職場への通勤”など利便性に関する項目は、市街化区域に比べ市街化調整区域、さらに都市計画区域外の不満足とする評価が高くなっています。

区 分	市街化区域	市街化調整区域	都市計画区域外
満足の評価が特に高い項目 (+0.5以上)	緑や水辺の自然環境 : 0.61	緑や水辺の自然環境 : 0.78 農業環境、田園環境 : 0.55	緑や水辺の自然環境 : 1.04
不満足の評価が特に低い項目 (-0.5以下)	まちの活気、活力 : -0.68	まちの活気、活力 : -0.67 高校、大学等への通学 : -0.64	高校、大学等への通学 : -1.03 病院、診療所への通院 : -0.94 まちの活気、活力 : -0.86 日常の買物 : -0.74 文化・スポーツ施設の利用 : -0.71 自然災害への対策 : -0.60 保育施設、福祉施設の利用 : -0.56 公園、広場 : -0.54 職場への通勤 : -0.54 道路・交通 : -0.53
備 考	20項目中 ・満足とする項目 : 12 ・不満足とする項目 : 8	20項目中 ・満足とする項目 : 9 ・不満足とする項目 : 11	20項目中 ・満足とする項目 : 6 ・不満足とする項目 : 14

オ 管理されていない空き家が増える傾向にあります。

- ・「管理されていない空き家が増える傾向にある」は市全体で約 35%、市街化区域で約 25%、市街化調整区域で約 41%、都市計画区域外で約 48%となっています。(表 2-17 参照)

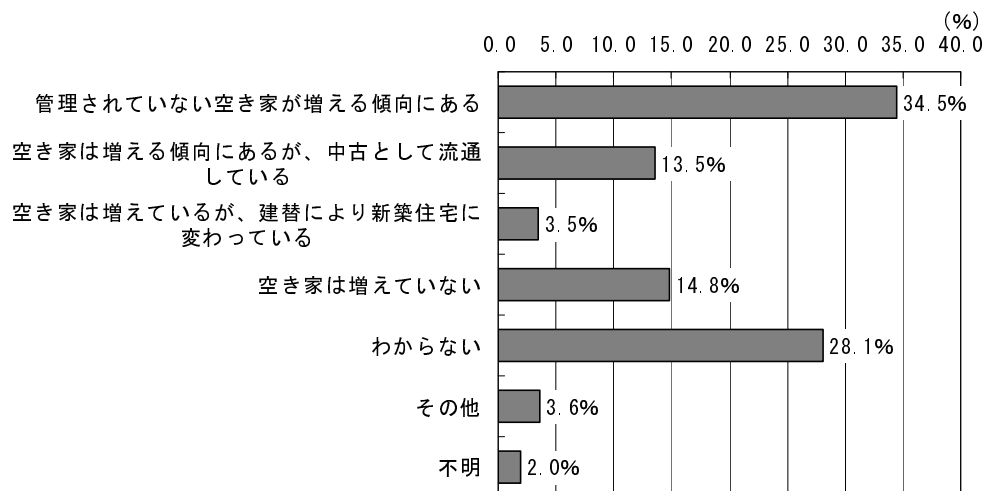


図 2-4 空き家の発生状況

カ 普段の生活に欠かせない移動手段は自動車が約 86%を占める一方、公共交通は 10%前後と低くなっています。

- ・「自家用車」が約 86%と最も多く、次いで自転車が約 25%になっています。
- ・一方、公共交通は、「路線バス」が約 13%、「鉄道」が約 8%、「市内巡回バス」が約 7%と低くなっています。

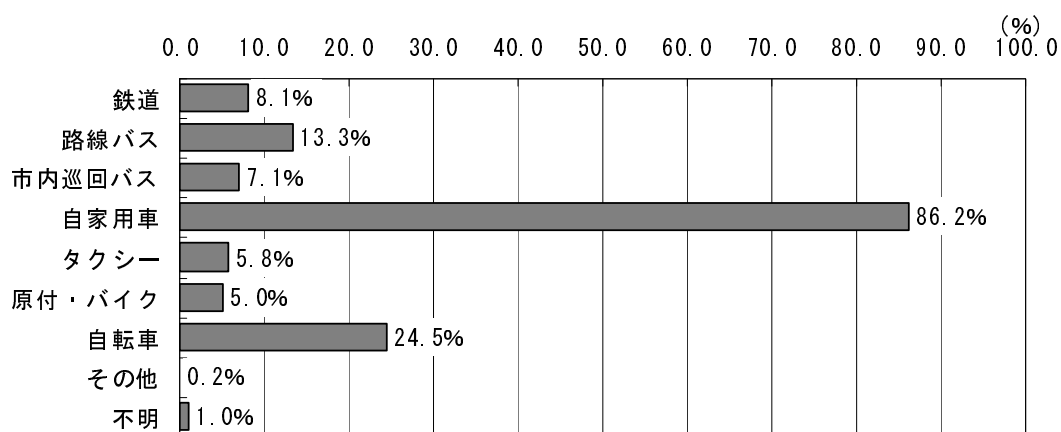


図 2-5 普段の生活において、かかせない移動手段（複数回答）

キ 現在、居住している地域の居住継続希望は「現在の場所に、住みたい」が約 73%で大部分を占めています。市街化区域では「現在の場所に、住みたい」、都市計画区域外では「綾部市の中心地に近い便利な場所に住みたい」の比率が若干高くなっています。

- ・「現在の場所に、住み続けたい」は市全体で約73%を占めています。
- ・区域区別にみると、「現在の場所に、住み続けたい」とする回答比率は市街化区域で約75%、市街化調整区域で約71%、都市計画区域外で約69%となっています。
- ・一方、「現在の場所を離れ、綾部市の中心地に近い便利な場所に住みたい」とする比率は、市街化区域で約7%、市街化調整区域で約8%、都市計画区域外で約13%となっています。

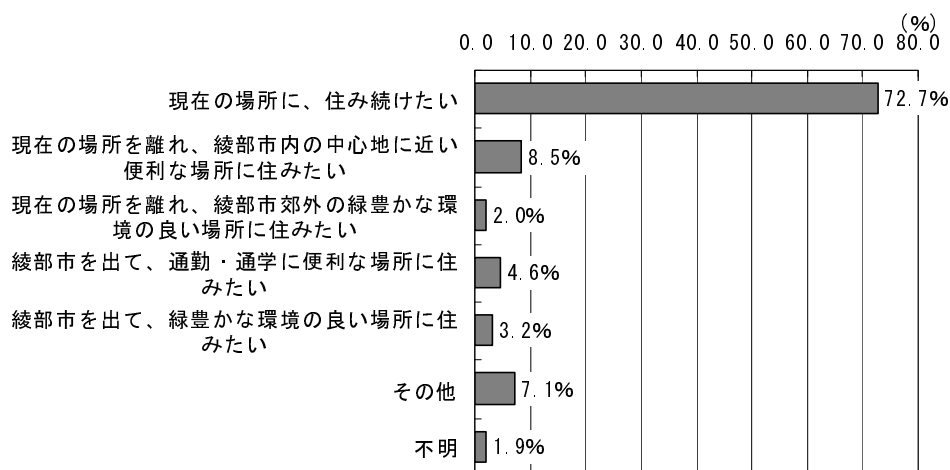


図 2 - 6 居住している地域での居住継続の意向

(3) 居住している地域における土地の利用方策に関する重要な方策について

ア 重要な方策として、住宅地環境の保全、産業振興、商業振興、農地の保全、自然・歴史の利活用などが上位にあげられています。

- ・居住している地域における土地の利用方策に関する重要な方策として、上位にあげられている方策は次のとおりです。

1位	現在の住宅地の環境を守り、育てる	: 56.5%
2位	現在の工業地などに工場・事業所などを誘致し、産業の振興を図る	: 44.4%
3位	農地の減少をできるだけくい止め、農業の振興を図っていく	: 31.0%
4位	大型ショッピングセンターなどを誘致し、新たな商業拠点をつくる	: 25.6%
5位	農地を市民農園など交流の場として有効活用する	: 24.9%
6位	貴重な自然・歴史を必要な範囲で公園・緑地として整備を行い、 余暇活動の場として利活用を図る	: 21.9%
7位	現在の工業地の環境を守り、育てる	: 19.9%
8位	旧来の中心市街地を守り、育てる	: 19.4%
9位	町内の古くからの商店や商店街を守り、育てる	: 17.9%
10位	幹線道路沿いに商業施設を連続的に配置する	: 16.6%

注：この比率は、回答者総数935票を100%として選択率（回答数／回答者総数）を算定しています。

(4) 宅地開発や建築の制限について

ア 市街化調整区域を指定して制限することについて、効果を認める回答比率は低く、一方、“問題がある”、“必要性が低い”とする回答比率が高くなっています。

- ・「市街化調整区域を指定し、制限していることにより、農地や自然環境が良好に保全されるなど、良い効果が出ている」の効果を認める回答は約12%で低くなっています。
- ・一方、「市街化調整区域を指定し、制限していることにより、住宅等が建設できない、人口が減少する、などの問題が発生している」、「市街化調整区域を指定し、制限している現状においても、農地や自然環境が減少して良い効果が出ていない」、「市街化調整区域では、宅地開発が少ないため、特に制限をしなくても農地や自然環境が保全され、大きな問題は発生しないと思う」の“問題がある”、“必要性が低い”といった、現行の区域区分に否定的な回答は約58%と過半を超えています。
- ・区域区分別では、問題がある”、“必要性が低い”といった回答率は、市街化区域は約57%、市街化調整区域は64%、都市計画区域外は約40%となっており、いずれも高い率となっています。

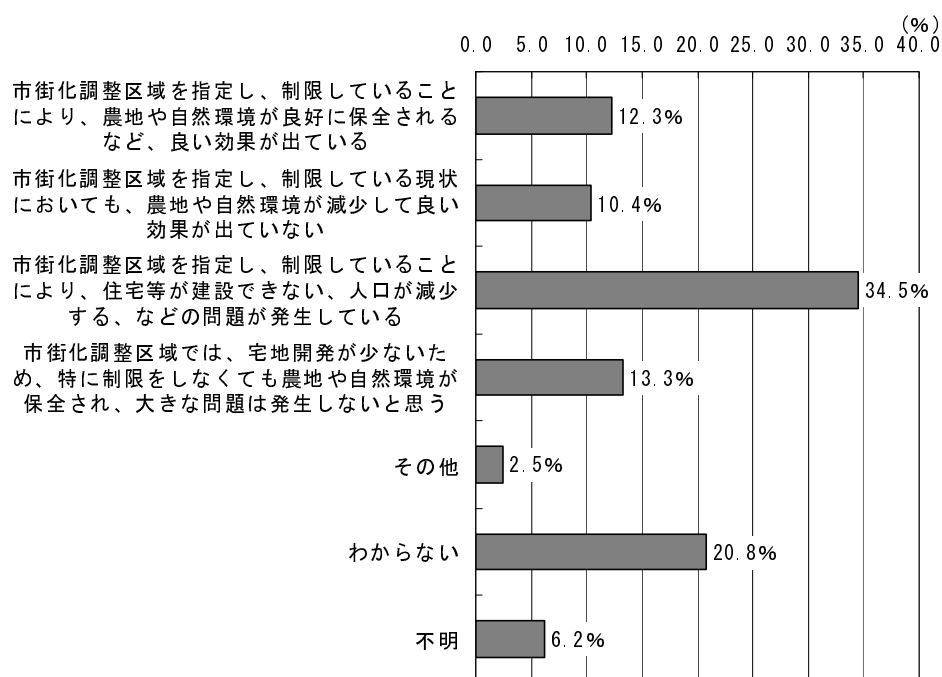


図2-7 “宅地開発や建築を制限していること”の効果や問題点

イ 望ましい制限方策については、農村部等では宅地開発を制限しない、市全域で住宅建設、或いは宅地開発のすべてを制限しないとする回答比率が上位を占めています。

- ・「現状どおり、農村部や山村部においては、宅地開発などを制限する」、「市街地に近い地域は、宅地開発などの可能性が高いため制限することは良いが、市街地から離れた農村部や山村部まで宅地開発を制限する必要はない」、「市全域で、宅地開発のうち、住宅建設についてのみ制限しない」の、宅地開発や建築には何らかの制限の必要性があるといった回答が約62%と高くなっています。
- ・その制限方法については、現行の制限方法を肯定する「現状どおり、農村部や山村部においては、宅地開発などを制限する」は約11%で最も低く、現行の制限方法と別の方法が望ましいとする、その他の回答が約51%と高くなっています。
- ・一方、「市全域で、宅地開発（商業地、工業地、住宅地など）のすべてを制限しない」は約11%と低くなっています。

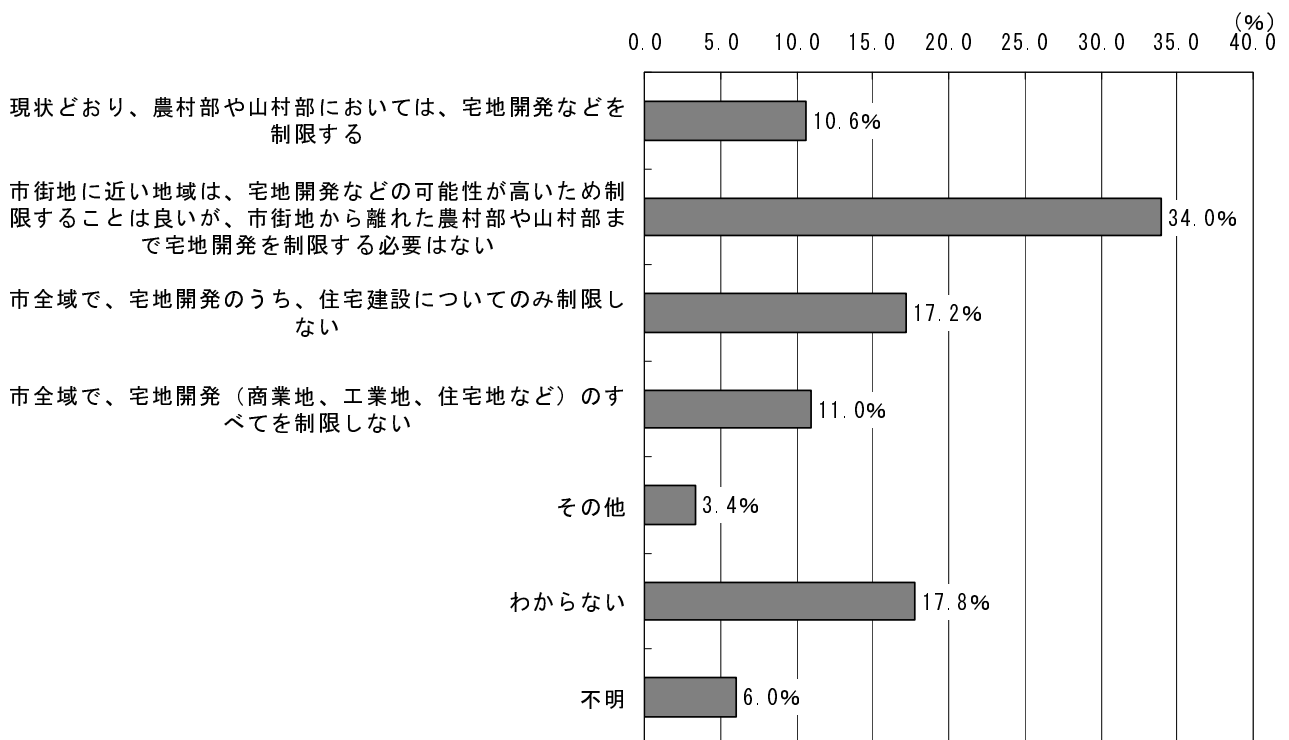


図2-8 農地や自然環境を保全しながら住宅地建設などの宅地開発を適正に進めて行くための望ましい制限方法について